

(様式1)

令和3年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 032	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名 乳牛ふんの堆肥化における水分調整等副資材の検討について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 都市近郊で経営する本県の畜産は、地域住民の生活に配慮する必要があり家畜ふん等の処理は喫緊の課題である。とくに酪農経営では、乳牛の高能力化に伴いふん中の水分含量は多くなる傾向で、さらに増頭によりふん等の総量も増加傾向にある。一方、堆肥化処理施設は設計当時の容積であり、現在の処理施設の能力では、余力を持った良質堆肥の生産が難しくなっている事例もある。 そこで、おがくずや戻し堆肥という従来の水分調整資材に加えて、より効果的かつ低コストに水分を調整できる資材の検討をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部    企画指導課
対応区分	①実施    ②実施中    ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済    ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 肥育牛におけるペーパーシュレッターダストを活用した敷料の検討（平成25年度）		
対応の内容等	おがくずは水分調整が容易であり良質堆肥が生産できる反面、価格高騰、入手困難が課題です。また、戻し堆肥は経営内での供給が可能なうえ良質堆肥の生産できる反面、塩類の集積が課題です。いずれも乳牛ふんに対し2倍程度の資材が必要となり、施設面積の制約がある農場では堆肥化に支障をきたす恐れがあります。 そこで、堆肥化施設の容積が足りない場合、通気型堆肥舎や脱水機の導入、廃業した農家の遊休施設の利用が有効な場合があります。当所で実施したおがくずとペーパーシュレッターダストを混合し肥育牛の敷料として使用した試験では、おが屑に25%程度混合し2カ月以上利用したもので、堆肥化処理時の温度の上昇が確認されており、水分調整等副資材としての利用も可能と思われます。 また、備考に示しました文献も参考にしてください。なお、加熱攪拌水分調整によるたい肥化では、副資材方式に比べたい肥量やたい肥化期間、たい肥化処理場面積も少ないが、ランニングコストが課題です。 今後も情報収集に努めるとともに、有望な資材がありましたら調査の実施についても検討してまいります。		
解決予定年限	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考	「おが粉の代替となる敷料の事例集」（公益社団法人 中央畜産会 平成28年3月） 「生ふんの加熱攪拌水分調整によるたい肥化方法」（島根県畜試 2002～2003年度） 「家畜ふん尿堆肥化副資材としての果樹剪定枝の活用」（愛知県農業総合試験場 2000～2001年度）		